

科目名	比較文学特講	担当者	モロサカ 諸坂 シゲトシ 成利	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>文学、美術、音楽、その他の諸芸術に触れて、直観的に理解できた場合、常にそこでは、ある仕方 で《他》(へ)の参照が行われている。通常の文学研究においては、そうではなく、先行・周辺研究 の参照という、いわば水平的な調査に終始するものであり、ベルグソンが言うようにそれは相対的な 知識(「形而上学入門」)に留まるしかない。一方、直観的把握の場合、それは垂直的、絶対的であり、 対象内部からの認識となり視点は消滅する。比較文学でいう l' explication de texte (原典味読)、 つまり《精読》の源泉は実はこういった哲学を背景にしている。一個のテキストの中に、《他》の、 外国の、己に敵するものの存在が秘められている。そういった、知識の獲得ではなく、自ら気づく、 発見の、比較文学の、comparative mind の経験をもたらすこと。これを本講の目的とする。</p>		
到達目標	<p>比較文学には誤解が多く、「比較文学者の数だけ比較文学がある」と言われた時代もあったが、 H. M. Posnett の <i>Comparative Literature</i> (1886)において、あるいはそれ以降、またそれ以前の例え ばショーペンハウエルにおいてさえ、他者の中に自己を見出すこと、あるいは逆に、自己の中に他 者を見出すことの問題に人々が関心を持ったこと、そしてそれに「比較文学」という名称が時として 与えられてきたことは歴史的に確認できるのである。しかしその名称がやがて独り歩きをし、また方 法論的に検討される過程で、「文学における国際研究」、「文学の科学」等と誤解されるに至ったが、 影響研究の実証は、トマス・アキナスを引き合いに出すまでもなく原理的に不可能であり、その誤 解された比較文学はやがて感性を失い、人々から見放されていくことになる。真の比較文学は読書中 に立ち現れる《他者》を客観的でない等の理由から退けるのではなく、《土着》との関係で逆に丁寧 に扱うことから出発する。その出発点がゴールでもある。</p>		
学修方法	<p>ある視点から、あるいはある方法によって眺められたものは、必ず相対的であり誤謬性を含んでい る。一読して得られた像は必ず間違っている。精読とは、いわばそれを壊す作業である。テキストの 内部に観入し、何故こう書いたのかが理解できるまで精読すること。またそれを可能にするためには、 逆説的であるが、日頃から視野を広げ、文学のみならず他の諸芸術にも触れていることが必要となる。 レポート作成については、履修者とのやり取りをしながら進めることになる。執筆前の相談、添削、 参考資料の提示、アイデアの提供など、丁寧にやりたいと考える。</p>		
スケジュール	<p>前期は、7月中旬までに基本教材1のレポート課題1、9月中旬までに課題2を提出する。 後期は、11月中旬までに基本教材2のレポート課題1、翌年1月課題提出締切日までに 課題2を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの構成力、説得力、洞察力、等々を総合的に評価する。
	平常評価	20%	1レポートにつき5%で、添削等の対応を評価する。
履修者への要望	<p>文学研究は、これも誤解されていることであるが、いわゆる(研究)調査ではない。自分が感じた 文学的感動、直観と想像力を分析することである。それ以外は文学の周边的研究に過ぎない。まずは 先行研究(理系の用語であるが)などによらず、自分の力でテキストを虚心に読むことに専念して欲 しい。そうすれば必ず《比較》という領野が広がるはずである。華嚴経を読むと「一即多」というこ とが多く登場するが、これは《一》の中に《多》が含まれているという存在の連鎖を示すもので、文 学においてはまさにこのことが言えるのである。《一》を通して《多》に通ずること。これが比較文 学である。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ホルヘ・ルイス・ボルヘス 教材名： 『続審問』（岩波書店【岩波文庫】，2011年）ISBN:978-4-00-327923-6 860円+税
	アルゼンチンの作家・詩人ボルヘスによって書かれた文学的エッセー集である。各エッセーは短いがすべてが含蓄に富んでおり、比較文学研究の種本のような本である。
参考図書	イヴ・シュヴレル著，小林茂訳『比較文学入門』（白水社【文庫クセジュ】，2009年）ISBN:978-4-560-50934-0 1,050円+税 拙著『中島敦「古譚」講義』（彩流社，2009年）ISBN:978-4-7791-1494-6 2,000円+税
履修上のポイント	まずは教材を通読して欲しい。そして自分の関心のある、あるいは書けそうな一篇を選択すること。この本に書かれたテーマは極めて多岐にわたっているため、自分の研究テーマに近いものを選択することはおそらく容易なはずである。
レポート課題 1	所収の「カフカとその先駆者たち」以外的一篇を選び、その要約（1,000字）を書き、内容について比較文学的に論ぜよ（3,000字）。 <b>留意点：</b> どの一篇を取り上げても、それ《について》書くとすれば比較文学的になるはずである。
レポート課題 2	所収の「カフカとその先駆者たち」に描かれた文学観について論ぜよ（4,000字）。 <b>留意点：</b> T. S. エリオットの「伝統と個人の才能」、G. K. チェスタトンの正統論等を参照してはどうか。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 川那辺 蕃 教材名： 『空の木』（彩流社，2012年）ISBN:978-4-7791-1823-4 1,900円+税
	本書は反近代をテーマにした小説集で、おそらく新人ゆえ先行研究はない。ここでは「バンドホテル」と「タンタキュレール」を扱うが、後者の主人公はナボコフの『ロリータ』同様、比較文学者である。
参考図書	ジャン・ボードリヤール著，今村仁司＋塚原史訳『消費社会の神話と構造』（紀伊國屋書店，1995年）ISBN:978-4-31-400700-9 1,942円+税 ラジスラフ・フクス著，阿部賢一訳『火葬人』（松籟社，2012年）ISBN:978-4-87984-312-8 1,700円+税
履修上のポイント	参考図書に関しては、課題が書ければ参考にする必要はないが、読めば『空の木』と響き合うものが得られるのではないかと推察する。テキストを精読し、比較文学を実践してもらおうのがこの教材を使う意味である。精読して、人に見えないものが見えるようにならなければ、比較文学ではない。精読して掘り下げていけば、ある、別の、新たな鉱脈にぶつかるはずである。
レポート課題 1	『空の木』所収の中篇「タンタキュレール」を読み、そこで想起される他の文学作品との類似性を述べよ（4,000字）。 <b>留意点：</b> 中篇であるがテーマは多岐にわたっている。切り口は自由でかまわない。
レポート課題 2	『空の木』所収の中篇「バンドホテル」を読み、そこで想起される他の文学作品との類似性を述べよ（4,000字）。 <b>留意点：</b> テーマは恋愛、現実と非現実、あるいは離人症等となるのではないかと。テーマを掘り下げるのが重要である。